

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
臨床運動学		必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
高村 浩司 他	D307	takamura-pt	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	正常運動の構成要素に基づき、中枢神経疾患や運動器疾患の障害を有する対象者の姿勢や運動の仕組みを学ぶことを目的とする。この講義では、対象者の病的な動作と正常運動との差について指導する。また中枢神経疾患ならびに運動器疾患の典型的対象者の動作ビデオを診ながら動作分析の仕方を指導する。				
学習上の助言	この授業では特に運動学で学んだ知識が必要となるので、しっかり復習しておくこと。予習・復習で生じた疑問は、授業中・オフィスアワー等で早めに解決すること。				
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト臨床運動学/総集編：石川朗/中山書店				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	正常運動について、運動学的視点から説明できる。			PT(1),(5)	
②	異常運動について、正常運動との相違を説明できる。			PT(1),(2),(5),(6)	
③	動作分析についてのレポート作成ができる。			PT(1),(2),(5),(6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	姿勢・動作を理解するための運動力学について学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義	基礎運動学第 6 版に記載している上肢、下肢の筋の作用について復習しておく。	4	
2	姿勢アライメントの定義と最適な姿勢について学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義	基礎運動学第 6 版に記載している上肢、下肢の筋の作用について復習しておく。	4	
3	正常運動 (寝返り・起き上がり) について学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義・実技	立位、座位、臥位の支持基底面の身体重心について復習しておく。	4	
4	正常運動 (坐位姿勢・立ち上がり) について学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義・実技	座位、立ち上がり時の支持基底面の身体重心について復習しておく。	4	
5	正常運動 (歩行) について学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義・実技	歩行の相 (立脚相、遊脚相) について復習しておく。	4	
6	脳血管障害における病態運動学について実際の臨床場面を想定した動作分析法を学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義・GW	歩行の相 (立脚相、遊脚相) について復習しておく。	4	
7	パーキンソン病における病態運動学について実際の臨床場面を想定した動作分析法を学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義・GW	パーキンソン病における病態について復習しておく。	4	
8	脊髄小脳変性症などの運動失調症における病態運動学について実際の臨床場面を想定した動作分析法を学ぶ。 [担当：高村浩司]	講義・GW	脊髄小脳変性症における病態について復習しておく。	4	
9	変形性股関節症に対する姿勢観察・分析について学ぶ [担当：関口賢人]	講義	変形性股関節症の病態について復習しておく。	4	
10	変形性膝関節症に対する姿勢観察・分析について学ぶ [担当：関口賢人]	講義・GW	変形性膝関節症の病態について復習しておく。	4	
11	変形性関節症に対する日常生活動作について学ぶ [担当：関口賢人]	講義・GW	変形性関節症の病態について復習しておく。	4	
12	運動器疾患 (上肢) に対する動作分析について実際の臨床場面を想定した動作分析法を学ぶ。 [担当：関口賢人]	講義・GW	肩関節周囲炎を中心とした上肢の運動器疾患について復習しておく。	4	
13	運動器疾患 (下肢) に対する動作分析について実際の臨床場面を想定した動作分析法を学ぶ。 [担当：関口賢人]	講義・GW	変形性股関節症を中心とした下肢の運動器疾患について復習しておく。	4	
14	Rancho Los Amigos 方式による動作分析について実際の臨床場面を想定した動作分析法を学ぶ。 [担当：関口賢人]	講義・GW	基礎運動学第 6 版に記載されている Rancho Los Amigos の分析を復習しておく。	4	

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

15	Klein-Vogelbach の運動学に基づいた動作分析について学ぶ。[担当：関口賢人]	講義	基礎運動学第 6 版について記載されている寝返り、起き上がり、立ち上がりの相について復習しておく。	4
試				

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	0
総合力指標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	20	0	0	0	0	20

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	中神経疾患ならびに運動器疾患に関して学期末に定期試験を実施して評価する。評価の割合は中枢 50%、運動器 50%とする。各試験では、教科書ならびに授業中のスライド、配布するプリントに基づく応用問題を出题し、理解度を問う。	試験終了後に講評及び内容の解説を行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備考

担当教員：◎高村 浩司、関口 賢人

教員の実務経験： 主担当者は理学療法士として 29 年の実務経験有

実践的授業の内容： 運動器ならびに中枢神経疾患を持つ対象者の動画から動作分析を行いその内容について議論する。

*実技を実施する際は、動きやすい格好で参加すること。

*全て対面授業で実施する予定である。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。

問題がある場合は面接授業の参加は認めない。

今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。